奥さま一口メモ　夢にうなされている子供を無理におこす必要はありません。

どうしましたか？ ハーイドクター HI! DOCTOR

こどもの心の発達

子育ては手がかかるもの

福岡大学医学部精神科
講師　小林隆児

〈育児は子どもとの自然な関わりから〉

今月から私がしばらくこのコラムを担当し、こどもの心の発達とその問題についてお話ししてみたいと思います。

このごろのお母さんは育児に対してとても熱心で、多くの育児書を読んでおられます。ですからこどもの成長については観察力も細かく、その成長に一喜一憂されることも多いようです。

最近の核家族化に伴い、母親は自分で過ごしたこども時代の経験を親から教えてもらう機会も少なく、こどもの心を自分を通して考えることがなかなかうまくできません。その結果、母親は育児に関する不安が強まることが多いのでしょう。気軽に相談できる人も少なく、どうしても育児書に頼らざるをえなくなります。しかし、母親としての成長はこどもとの自然な関わりの中からしか生まれません。本を読んで知的に理解しようとすると弊害も少なくありません。

〈乳幼児期が一番手がかかる〉

日々の臨床場面でよく耳にすることは、乳児期に母を求めず、泣き叫ぶこともせず、おとなしく全く手がかからなかったことがとても良いことであるかのように話される母親も例外ではありません。人見知りもせず、あとおいもせず、誰にでも平気でなついているこどもに不安を持たない母親もいます。自分の生活の多忙さも手伝って親に手をかけないのがお利口さんであると思いがちのようです。でもこれは大変な誤りで、乳幼児期は子育ての中でも最も手がかかる時期です。しかし、その中で親子の心のかよいあいを通して初めて母親としての喜びを体験するのです。もしこの時、楽をしたら、数年ないしは十数年後になってとんでもない借金がふりかかってくることになるかもしれません。

粘液嚢胞（のうほう）

全摘出が一番良い

福岡歯科大学
小児歯科学教室
助手　石井　香

小児歯科でよく唇、特に下唇に写真のような膨隆をみかけることがありますが、本人は勿論保護者の方も気がつかずにいることが多いようです。これは粘液嚢胞（小児特有のものではなく成人にもできる）と呼ばれるものです。できる場所は唇が一番多いのですが、時には舌の先端の裏側にできることもあり、この場合は特にブランディンスーン嚢胞と呼ばれています。これは唇や舌下に沢山分布している唾液の通る管が何らかの原因で詰まったり損傷を受けたりして、そこに唾液が溜ったためにできたものです。唇を咬む癖がある子供などは特に多く見掛けられ、一度に2～3個できることもあります。大きさは米粒大のものから、大豆大より大きなものまで種々あり、色は嚢胞が表面にある時は透明で、深くなるほど粘膜色に近くなるようです。自然に潰れて無くなってしまう事もありますが、大抵の場合潰れてはまた膨らむということを何回も繰り返し、段々大きくなったり、固くなったりします。殆どの場合痛みは全くありませんが、何回も繰り返してきるようであれば、一度歯科医に相談してみて下さい。これらの処置として、嚢胞を全摘出することが今のところ一番良い方法だと思われます。局所麻酔下での簡単な手術ですので、あまり心配はいりません。

下口唇にできた粘液嚢胞

健康コラム

鼻水

熱・せきがなければ安心

Q 生後6ヵ月の女の子、かぜでもないのに鼻水が出ます。鼻の病気でしょうか。

A 1日数回ほんの少し鼻水が出る程度は心配ありません。くしゃみをしたあとや泣いたあとにも、鼻水は出るのですから。ただし、2～3ヵ月末満の小さな赤ちゃんが鼻水を出すのは赤信号です。急いで小児科へ。

もう少し大きな赤ちゃんでは、かぜをひいて鼻水を出してくることがあります。よく「鼻かぜ」といいますが、熱がなくて、くしゃみと鼻水だけのこともあります。熱を伴ったり、せきがなければ、暖かくして様子を見てよいでしょう。お誕生日を過ぎると、「鼻かぜ」はもっと多くなります。ほかに心配な症状はないけれど、いつも鼻水が流れて1週間もたつ時や、鼻水がきたない色になった時は診察を受けましょう。お母さんたちは、小児科へ行こうか耳鼻科へ行こうか迷うと思いますが、鼻だけの症状がつづいているようなら、耳鼻科、ほかの症状があれば小児科を受診してください。

もう少し幼児で、くしゃみがひどく、涙が出たり、目をかゆがる子どもがいます。鼻水は水っぽくて透き通っています。こんなときは、アレルギー性鼻炎のことがありますので、アレルギー専門医か小児科・耳鼻科の診察を受けましょう。